

育児中の母親を対象とした東広島市の保育・子育てに関する サービス利用の実態とニーズの検討

水内 豊和¹・七木田 敦²

Research on States and Needs of Child Care Supports in Higashi-Hiroshima City

Toyokazu Mizuuchi¹ and Atsushi Nanakida²

The present study analyzed the attitudes and needs on child-rearing supports and resources of 164 mothers in Higashi-Hiroshima city. The subjects of this study were characterized who have almost minimum family member consist of her, husband, and their one or two child, have no regular job, usually care own child at home and are participating in the child-rearing circle. The result are as follows: The mothers tend to play at parks with their a child than any other resources. It lacks traffic facilities in Higashi-Hiroshima city, so they always need to use their car for going out. They usually ask their husband's advice on child-rearing and get informations about child care by members of the child-raring circle. They need to extend times to take care of children at a day-care center. The reasons of prefer parks and libraries are primary only a little way from their home. Finally, it become to clear that some needs of problems to improve for the quality of child care environments in Higashi-Hiroshima city.

Key Words: child care support, needs, Higashi-Hiroshima city

はじめに

近年、子どもとその親をとりまく社会の変化により、子育てに関する世代間での経験に基づく情報は継承されにくくなっているといわれる。またそれとは逆に、育児産業の興隆とともに書店の育児コーナーを見てみると、一般的な情報があふれてかえっている。しかし、子育てに際し、特に発達上重要な時期である乳幼児期に活用できる育児情報を個々人で収集・選択する、さらには活用していくことは、今日がこれだけ情報化社会と言われつつも孤立する母親がいる現状を見ればわかるように容易なことではない。ところが、近年の保育サービスの多様化は、幼稚園・保育所の機能の柔軟化を意味するものであり、利用者が自分のニーズにあったサービスを選択することが求められている。

このようなことから、選択の指標として、地域の保

育・子育ての情報が活用しやすい形で一元化されることが望まれる。また、サービスが利用者のニーズに即しているか評価・検討することが重要であると考えられる。

東広島市についてみると、前者に関しては、七木田(2001)が報告しているように、市と支援センター保育所、保健センターならびに広島大学が育児支援を目的に連携した東広島「子育て支援」連絡協議会が発足し、育児情報の発信も活動のひとつとして運営されている。また七木田・水内・赤尾(印刷中)が報告しているように、2001年より東広島市における子育て情報の総合的web情報サイトを作成し情報発信中である。

この東広島市は、昭和49年に広島大学を中核とした学園都市の建設を目指し、西条町、高屋町、志和町、八本松町の4町が合併して市制を施行した、比較的新しい市である。その後、テクノポリスの地域指定を受け、工業団地、住宅団地の開発整備にあわせて、新幹線駅の設置、高速道路の整備、また新空港も近隣町に整備

1 広島大学大学院教育学研究科博士課程後期

2 広島大学教育学部附属幼年教育研究施設助教授

されるなど、新しい街づくりが急速に進められてきた。その結果、合併当初、6万5千人程の人口も、今では約倍の12万人(平成14年1月末現在の人口121,308人)と膨れ上がり、全国的にも人口の飛躍的な伸びを示している街である。あわせて子どもの人口も急増し、幼稚園への待機児童も出ている。その反面、家族構成も大きく変化し始め、中心部では核家族化も進み、かつての田園地帯は一変し、市民の保育ニーズも多岐にわたり、従来の保育サービスでは対応しきれない部分も出てきているようである。少子化と言われる今日においてこのような特徴を示す地域も珍しく、本調査で着目する意義も大きいと思われる。

したがって本研究では、東広島市の子育て環境について、資源利用の状況把握とニーズに関して、母親へのアンケート調査をもとに明らかにする。

方法

1. 調査内容

東広島市の子育てに関するサービスについてサークル運営関係者などからのヒアリングを参考にしつつ、子育ての実態とニーズに関する質問紙を作成した。質問内容は、1) 回答記入者である母親の年齢、住んでいる町、職業形態、祖父母との同居の有無、子どもの人数、子どもの年齢、主たる子育ての場、からなる回答者の概要を把握する質問項目、2) 育児に際してよく利用する施設とそのために利用する交通手段に関する質問項目、3) 育児相談及び育児に関する情報を入手するソースに関する質問項目、4) 日ごろよく利用する公園に関する質問項目、5) 日ごろよく利用する図書館に関する質問項目からなる。それぞれ選択肢から当てはまるものを番号で記入する選択式の質問となっているが、問題や改善点を深く掘り下げて調べる目的で、自由記述を求める質問もいくつか含まれる。

2. 調査対象

今回調査の対象としたのは、主に東広島市内において家庭中心で子育てをしている母親である。質問紙の配布先は、平成12年度東広島市保健センター主催「ファミリー子育て講座」の参加者、東広島市および黒瀬町の計14の育児サークル、その他個人的な繋がりなどである。総配布数は400部で、サークルは団体ごとに、その他は個人ごとに切手付き返信用封筒を添付して配布した。

3. 分析方法

各設問では、選択項目のうち、もっとも当てはまるもの1項目を尋ねている。分析に際しては、基本的に、それぞれの質問項目について、たとえば地域間や母親の年代間などでの比較検討は行なっていない。それは「東広島市」という規模の地域で今回の調査を実施するという意図による。また、自由記述を求める質問項目については、内容をカテゴリーごとに分類し、集約的な意見として抽出した。

結果と考察

1. 調査対象者の概要

今回の調査対象の概要を、調査の依頼・回収先、および以下の7つの質問項目から把握した。

(1) 調査の依頼・回収先

アンケートの総回収数は164部で、分析対象も同数である。回収したアンケートのうち、ほぼ90%が、子育てサークルの参加者による回答であった。

(2) 母親の年齢

回答した母親の年齢は、30～34歳が最も多く(78人、47%)、ついで、35～39歳(47人、28%)、そして25～29歳(31人、19%)となっていた。45歳以上の回答者はいなかった。

(3) 居住地域

これは、調査の回収先、つまりサークルの所在地とも関係してくるが、結果は西条町がもっとも多く(64人、39%)、ついで高屋町(55人、33%)、八本松町(20人、12%)、そして志和町(14人、8%)と、地域によりかなり偏りがあった。黒瀬町からの回答者も10名みられた。

(4) 母親の職業形態

これも、調査の依頼・回収先と関係している。すなわち先述の子育てサークルからの回収が多いため、「専業主婦」が138人(84%)ともっとも多かった。ついで「フルタイム」および「パートタイム」がともに10人(6%)となっていた。

(5) 祖父母との同居

祖父母との同居については、「同居していない」が118人で71%であり、ついで「同居していないが市内にいる」が28人(17%)、そして「同居している」が16人(10%)であった。

(6) 子どもの人数

子どもは「2人」が最も多く(78人、47%)、ついで「1人」が50人(30%)、そして「3人」が31人(19%)であり、「4人以上」は4人(2%)であった。

(7) 子どもの年齢

子どもの年齢についてたずねたが、子どもが2人以

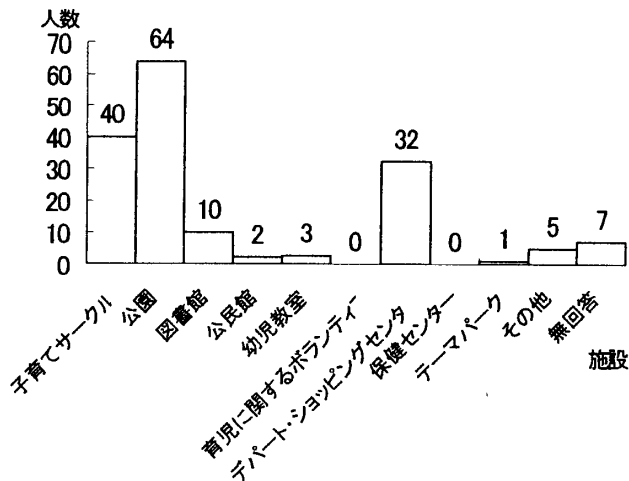


図1 子育てに用いる施設

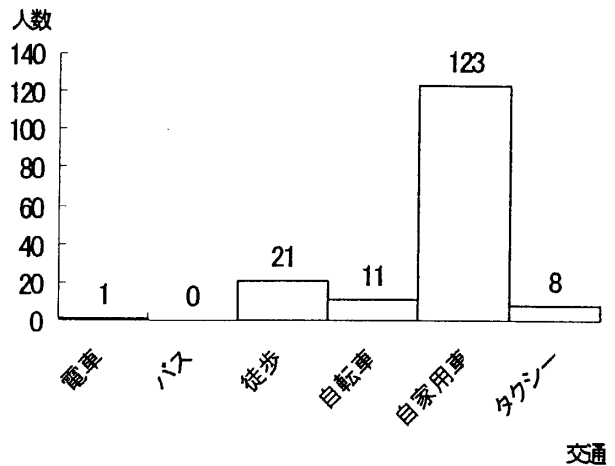


図2 子育てに用いる交通手段

上の場合は、もっとも年齢の小さい子どもについて回答を求めた。なお、この子どもの年齢に関する制限は、これ以降の質問についても同様としている。回答者の子どもの年齢は1歳から3歳までが多かった。これはこの年齢の子どもを持つ親の集まりとして子育てサークルがあることを示していると考えられる。さらに言えば、3歳以降は幼稚園(または保育園)に通園するので、3歳以降の子どもを持つと回答する親が少ないものと考えられる。

(8) 主たる育児形態

これも調査の依頼・回収先が大きく影響している。すなわち子育てサークル利用者が多いため、「家庭での育児」を主とした育児の場としている人が132人(80%)と最も多かった。ついで「幼稚園」が19人(11%)、「保育園」が8人(5%)となっていた。

これまでの結果を総合すると、今回の調査の対象者は、東広島市でも町によって人数の偏りがあるが、主に家庭で育児をする核家族の専業主婦という特徴を挙げられる。

2. 育児に関してよく用いる施設

育児に際し、よく用いる施設について選択肢から回答してもらった。結果は、図1に示すように、「公園」が最も多かった(64人, 39%)。ついで「子育てサークル」が40人(24%)、「デパート・ショッピングセンター」が32人(19%)となっていた。子どもをつれて公園で遊ぶというのは予想通りであるが、三番目に「デパート・ショッピングセンター」が多かったのは、買い物に行く際子どもを連れて行かざるをえないから、あるいは主に西条町内にあるフジグランやハイパーマート、イズミゆめタウンなどの大型店舗には子ども用のプレイランドが常設されていることにもよると考えられる。

「子育てサークル」が多いのは、今回の調査対象者を反映したものであろう。

3. 子どもと用いる交通手段

よく用いる交通手段について選択肢から回答してもらった。また不便な点や改善を希望する点などを自由に記述してもらった。

選択回答からは、図2に示す結果のように、自家用車が最も多く、回答のうちの大部分を占めていた(123人, 75%)。

東広島市の交通事情に関する要望や改善が望まれる点についての自由記述からは以下のような回答を得た。

①自動車利用に関して

- ・東広島は交通の便が悪いので、自動車を利用せざるを得ない。

- ・駐車場のスペースが狭い。ベビーカーの昇降に不便。

②電車・駅利用に関して

- ・駅に多目的トイレ(障害者用・妊婦用・オムツ換えシートの設置など)が必要。

- ・駅にエレベーター、エスカレーターが必要(ベビーカー利用者には階段は不便)。

③バス利用に関して

- ・バスの本数が少ない。

- ・バスが定刻に来ない。

- ・低床式、ノンステップバスを導入してほしい。

④徒歩および自転車利用に関して

- ・国道375号および486号の歩道は狭い上に段差がありすぎる。ベビーカーに載せた子どもへの衝撃が心配される。

- ・舗装がされていない・ガードレールがない道路が多い。

- ・街灯がない。

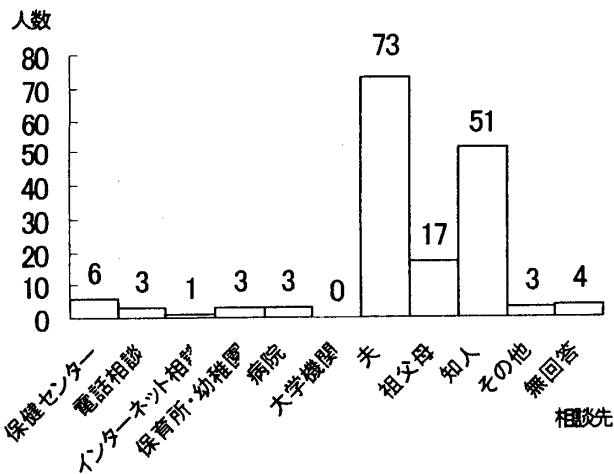


図3 育児に関する相談先

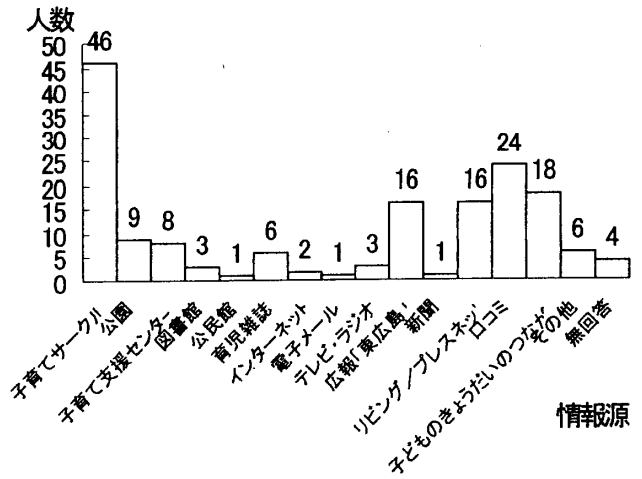


図4 育児に関する情報源

ほとんどの記述は、このように自動車以外の交通手段を利用したいにもかかわらず、バスは本数が少なく、また運行ルートも限られていること、バスと電車の連絡が悪く利用しづらいことを挙げていた。また自動車でも道が狭いことや、そのため自転車では危険であることも挙げられていた。したがって東広島市の交通事情に対し、子どもを持つ母親は不便さを感じており、選択の余地なく自動車を利用しているといえよう。

4. 子育てに関する相談

子育てに関する相談は主にどこで(誰に)するか、選択肢から回答してもらった。図3に示す結果のように、相談相手として「夫」が最も多かった(73人、44%)。これは水内らの、子育て支援センター利用者を対象にした同様の調査(水内・林・七木田, 2000)でも「夫」が一番多かったことと同じ結果であった。ついで「知人」(51人、31%)となっているのは、対象者の多くが子育てサークルに所属しており、そこで相談していることを示したものである。

5. 子育てに関する情報

子育てに関する情報は主にどこで入手するのか、選択肢から回答してもらった。図4に示す結果のように、「子育てサークル」が最も多く(46人、28%)、ついで「口コミ」(24人、14%)となっていた。これは回答者に子育てサークルの人が多くによるのであろう。その次には「子どものきょうだいのつながり」がきており、重要な情報源であることが示された(18人、11%)。さらに、「広報『東広島』」および「リビング/プレスネット」が入っている(16人、10%)。この広報誌や地域情報紙には、図書館の催しや、講演会の案内、保育所園庭開放の情報、サークル紹介などが各月ごとにまとまっ

て紹介されており、情報源として市民が活用していることが明らかにされた。なお、近年一般家庭に急速に普及しているといわれている電子メディア(インターネット、電子メール)については、ほとんど情報源になっていないことがわかる。これは、東広島市においては、特に地域に特化した子育て情報が電子メディアとして提供されていない、あるいはサイトを十分に活用しきれていないことに加え、人とのつながりを大切にする母親像が予想される。

6. 子育てに望まれるサービス

子育てに際し、必要だと思うサービスや施設について、選択肢から回答してもらった。またそれ以外に、回答者が必要と思うものがあれば、記述してもらった。

選択回答からは、図5に示すように、「延長保育」と答えた人が多くみられた(36人、22%)。これは、家庭が主たる育児の場としており保育所や幼稚園を利用していない回答者が多いことには、一見関係のないことのようにだが、今後保育所や幼稚園に子どもを預けることになった場合を想定して回答したのではないかと推測される。次に「一時預かり保育」(26人15%)となっていたが、これは自由記述にも必要なサービスとして多く挙げられていた。その次には「子育て支援センター」が挙げられており(21人、12%)。支援センター事業を東広島市において一番早く始めた保育園で4年たっていることから、徐々に市民に認知されてきていることが伺えた。そして「図書館・公民館などの催し」(8人、10%)となっていた。

上の質問の選択肢以外に、子育てに望まれるサービスや施設についての自由記述からは、以下のような意見が見られた。

・学童保育および一時預かり保育の増加

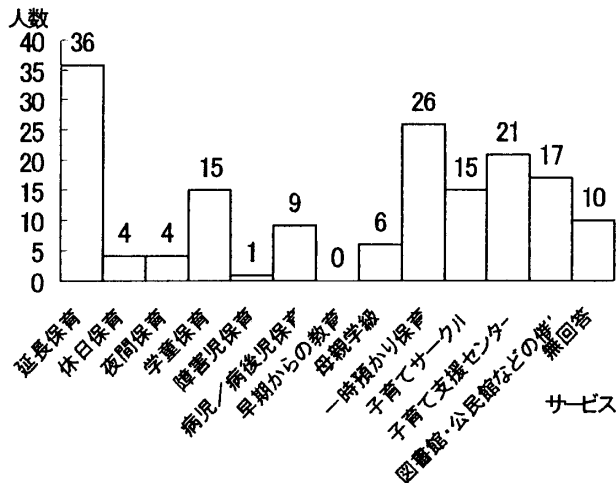


図5 育児に望まれるサービス

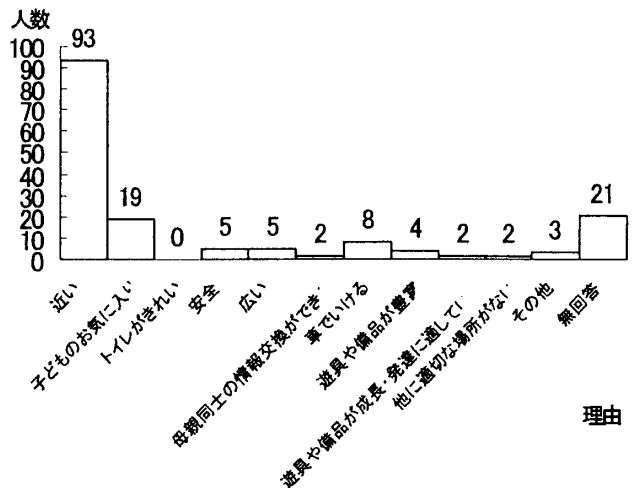


図6 公園選択の理由

- ・ベビーシッター
- ・小児科病院の増加
- ・未就園児が気楽に遊べる場所(子育て支援センターはわずかにしか利用できないため)
- ・児童館
- ・育児相談センター
- ・市民が簡単に利用できるオープンスペース
- ・文化施設(ホールや文化科学館、プラネタリウムなど)
- ・男性用トイレにもオムツ交換台が必要

さまざまな意見が見られる中で顕著だったものは、数時間～数日子どもを見てくれる預かり保育であった。子育て支援センターをもっと利用したいのに、開催日や定員が少ないため月に一度ぐらいしか利用できない、という意見も顕著にみられた。また、東広島市には児童館がないということ、ベビーシッターが欲しいということ、小児科の数が少ないことが数多くあげられていた。一方で、育児に関する相談場所や学童保育、一時預かり保育など、既存のものもあげられているということは、十分に情報が行き届いておらず、活用されていないことが推測される。

7. 公園について

育児に際して重要なリソースである公園について検討した。まずどの公園を利用しているかたずねた後、その公園を利用するのはなぜか選択肢の中から回答してもらった。さらにその公園について不便な点や改善希望について記述してもらった。

(1) 利用している公園

多かったのは西条中央公園、三城古墳公園、龍王山憩いの森公園であった。それ以外では「団地の中の公園」というのが多くみられた。これは特に新興住宅地

である高屋町の回答者に多く、その中でも高美が丘地区の人が多いのではないと思われる。

(2) 公園を選択利用する理由

選択回答から、図6にみるように「近いから」が最も多かった(93人, 56%)。次に「子どものお気に入りだから」(19人, 11%)となっており、特に個々の公園に特化した理由は見当たらなかった。

(3) 公園の不便な点、改善を要望する点

公園について、不便な点や改善を要望する点について自由記述でたずねたところ、おおよそ以下に集約されるような回答を得た。

①遊具に関して

- ・遊具が少ない。
- ・遊具が古い、汚い。
- ・遊具に年齢・発達の配慮がなく、大きい子向けのものが多い。
- ・砂場に猫や犬の糞があり、衛生的に汚い。

②その他施設に関して

- ・日陰が少ない(日射病の心配)。
- ・水のみ場がない(同上)。
- ・時計がない。
- ・弁当を食べれるようなテーブル、ベンチがない。
- ・駐車場がない。
- ・トイレが汚い。トイレットペーパーがない。
- ・トイレにオムツ交換台が必要。
- ・汲み取り式のトイレは、子どもが怖がるので換えて欲しい。

いろいろな意見が述べられているなかで、もっとも多かったのは、トイレがないあるいは汚いというものであった。次に多かったのは、公園に日陰がないということであった。これは夏の炎天下の中で公園で遊ぶ折には重要な事項であろう。また時計がないという意

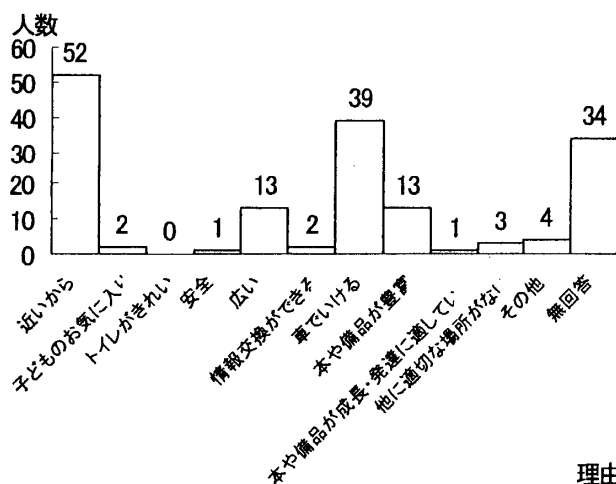


図7 図書館選択の理由

理由

見も多く見られた。市で最大の公園である「憩いの森公園」へ行く途中の道路が狭いことも多く挙げられていた。

8. 図書館について

公園同様、育児に際して重要なリソースである図書館について検討した。まずどの図書館を利用しているかについて尋ねた。また、図書館の選択理由についても選択肢を設けて回答してもらった。さらに、図書館についての不便な点や改善希望について自由に記述してもらった。

(1) 利用している図書館

利用している図書館は限られており、東広島中央図書館、サンスクエア内の図書館が殆どであった。あとは、河内ふれあい交流館と移動図書館「としまる」が数件ずつであった。

(2) 図書館を選択利用する理由

選択理由については、図7に示すように、「近いから」が最も多かった(52人, 31%)。しかし実質上図書館は東広島市に2つしかなく、それも西条町にしかないことから、西条近辺の人以外には実際には不便なのではないかと予想される。ついで「駐車場があり、車でいけるから」が39人(23%)であり、自動車を移動手段として使わざるをえないということからも、自動車で行く事のできる図書館は、子育てに関する施設として需要が高いのであろう。そこで、地域ごとに図書館利用理由を検討した。すると「近いから」を利用の理由に挙げた割合は、西条町59%、志和町28%、高屋町16%、八本松町10%となっていた。逆に高屋町や八本松町が「駐車場があり、車でいけるから」と答えた人の割合が他町に比べて高かった。これは、図書館は遠いけれども西条町にしかないため、しかたなく車で行って利用し

ているという事情が推測される。

(3) 図書館の不便な点、改善を要望する点

図書館について、不便な点や改善を要望する点について自由記述でたずねたところ、以下に要約される回答を得た。

① サービスの向上

- ・新刊図書を増やして欲しい。
- ・紙芝居を増やして欲しい。
- ・視聴覚ライブラリーを増やして欲しい。
- ・開館時間を早くして欲しい。
- ・閉館時間を遅くして欲しい。
- ・休館日を少なくして欲しい。
- ・トイレにオムツ交換台を設置して欲しい。
- ・駐車場を増やして欲しい。
- ・としまるの来る時間は午前中にして欲しい(午後は子どもの昼寝の時間と重なる)。

② クレーム

- ・子どもが少々騒がしかったり乳児が泣くのはどうしようもないことなのに、注意をされる。
- ・態度が悪い係員がいる。

その他に図書館が西条町に2つあるのは納得がいかないという意見が多く述べられていた。上述のクレームに掲げたのは、どれも5件以上の記述があるものである。乳幼児をつれて図書館に行くと叱られたり、うるさがられたりするの嫌で抵抗があるといった意見が非常に多く見られたが、利用者が最低限のマナーを守って利用しているのであれば、図書館にこのような雰囲気があるのは改善されるべきであろう。

おわりに

今回の調査は、家庭を主たる子育ての場とし、子育てサークルに参加している母親が回答者の多くを占めていること、また回答者の居住地も、西条町と高屋町が多いという特徴が、分析の前提としてであることを断っておく。

東広島市はいまだ交通整備が遅れており、自家用車がなければ生活に困ること、他の市町村にあるような文化的施設も乏しいこと、児童館もないこと、図書館や規模の大きな公園が西条町に局所化していること、子育て支援センターなどのリソースが需要に対して少ないことなどのニーズを抱えていることが示唆された。その一方で、もう少し日常レベルで改善を望みたいこと、たとえば図書館での乳幼児に対するサービスの改善、公園のトイレの気持ちよい利用の心がけなど、利用者も一体となって質の向上を考える必要があるだろ

う。

ところで、この調査の実施過程では、東広島において、育児サークルが多く存在し、地域に根ざして精力的に活動しているさまも見られた。

今回の調査結果は、今後の東広島における子育て環境の向上にあたり、基礎的な資料を提示できたものと思う。今後は、さらなるアンケートの回収により、まず各町の人数の均等化を図ることと、育児形態についても現時点では専業主婦で家庭保育を主としている回答者がほとんどであるため、保育園・幼稚園利用者についても配布回収することがあげられる。その上で、いろいろな観点からの比較検討をおこなうことで、地域間、年齢間などの意識、実態比較が行えるものと思う。また、調査であがってきた地域リソースの抱える課題について現地調査もおこなう必要があるだろう。

註

1) 東広島「子育て支援」連絡協議会および広島大学教育学部附属幼年教育研究施設監修による東広島子育て情報web「かも子育てねっと」<http://home.hiroshima-u.ac.jp/kosodate/>

付記

本研究は、東広島市の平成12年度地域課題研究事業補助金を受けて行った、「東広島市の子育ての実態とニーズに関する研究(研究代表者 水内豊和)」の第3章に加筆・修正したものである。また、本調査結果は、平成13年度まちづくり活動補助金を受けた研究事業「東広島市における子育て情報の集約とWeb上での提供(研究代表者 水内豊和)」の一部として、「かも子育てねっと」にて公開する。

謝辞

本研究を進めるにあたり、ご協力いただきました、東広島保健センター、東広島サムエル保育園、妙徳保育園、青雲保育園、西条保育所、愛育保育園の各所長、園長先生、および子育て支援担当の先生方に感謝申し上げます。また、アンケートの配布・回収に際して多大なるご協力をいただきました壇上さん(りとるはんど代表)に深謝申し上げます。そしてアンケートに

回答いただきました多くの子育て中のお母様方に感謝申し上げます。

引用文献

- 水内豊和・林千津子・七木田敦(2000) 子育て支援センターを利用する母親の意識. 幼年教育研究年報, 22, 61-69.
- 七木田敦(2001) 東広島「子育て支援」連絡協議会設立と今後の展望. 幼年教育研究年報, 23, 73-79.
- 七木田敦・水内豊和・赤尾安啓(2002) 東広島市における地域子育てネットワークの構築. 幼年教育研究年報, 印刷中.

資料

—質問項目—

1. 調査対象に関する質問

- (1) 母親の年齢: お母さん(記入者)の年齢を教えてください。①20歳未満②20～24歳③25～29歳④30～34歳⑤35～39歳⑥40～44歳⑦45～49歳⑧50歳以上
- (2) 居住地域: 現在のお住まいを教えてください。①西条町②高屋町③八本松町④志和町⑤その他
- (3) 母親の職業形態: お母さんの職業形態について教えてください。①フルタイム②パートタイム③専業主婦④その他
- (4) 祖父母との同居: 祖父母(両方または一方)との同居について教えてください。①同居している②同居していない③同居していないが市内にいる
- (5) 子どもの人数: お子さんの人数を教えてください。①1人②2人③3人④4人以上
- (6) 子どもの年齢: お子さんの年齢を教えてください。お子さんが2人以上の場合、もっとも小さいお子さんについて教えてください。①0歳②1歳③2歳④3歳⑤4歳⑥5歳⑦6歳以上
- (7) 主たる育児形態: 子育ては主にどのようになさっているのか教えてください。①保育所②幼稚園③家庭での育児④その他

2. 子育てに用いる施設

ふだん(子どもを幼稚園・保育所などに預けられている場合は休日)の育児に際してよく用いられる施設はどこですか。①子育てサークル②公園③図書館④公民館⑤幼児教室⑥ボランティア⑦デパート、ショッピングセンター⑧保健センター⑨テーマパーク⑩その他

3. 子育てに用いる交通手段

(1) 先の質問で回答した施設に子どもと行く際、どのような交通手段をういますか。①電車②バス③徒歩④自転車⑤自家用車⑥タクシー⑦その他

(2) 上で回答した交通手段を子どもと利用する際、不便な点や改善を要望する点があれば具体的に教えてください。

4. 子育てに関する相談

子育てについての相談はどこでしますか。①保健センター②電話相談③インターネット相談④保育所・幼稚園⑤病院⑥大学機関⑦夫⑧祖父母⑨知人⑩その他

5. 子育てに関する情報

子育てについての情報(例:幼稚園の情報、講演会、おすすめの本など)はどこで知りますか。①子育てサークル②公園③子育て支援センター④図書館⑤児童館⑥公民館⑦幼児教室⑧育児雑誌⑨インターネット⑩電子メール⑪テレビ・ラジオ⑫広報「東広島」⑬新聞⑭リビング/プレスネット⑮口コミ⑯子どものきょうだいのつながり⑰その他

6. 子育てに必要なサービス

(1) あなた自身が子育てに際して、今後必要だと思うサービスを教えてください。①延長保育②休日保育③夜間保育④学童保育⑤障害児保育⑥病児/病後児保育⑦早期からの教育⑧母親学級⑨一時預かり保育⑩子育てサークル⑪子育て支援センター⑫図書館・公民館などの催し

(2) 上の質問で回答した以外に、あなた自身が必要と

思う子育てのための施設やサービスについて具体的に教えてください。

7. 公園について

(1) 日ごろよく利用されている公園についてお聞きします。その公園の名前を教えてください。

(2) なぜこの公園を利用するのか。以下の選択肢から理由が当てはまるものをお答えください。①近いから②子どものお気に入りだから③トイレがきれいだから④安全だから⑤広いから⑥母親同士の情報交換ができるから⑦駐車場があり、車で行けるから⑧遊具や備品が豊富だから⑨遊具や備品が子どもの成長・発達に適しているから⑩他に適切な場所がないから⑪その他

(3) この公園について、不便な点や改善を要望する点があれば教えてください。

8. 図書館について

(1) 日ごろよく利用されている図書館についてお聞きします。図書館の名前を教えてください。

(2) なぜこの図書館を利用するのか。以下の選択肢から理由があてはまるものをお答えください。①近いから②子どものお気に入りだから③トイレがきれいだから④安全だから⑤広いから⑥母親同士の情報交換ができるから⑦駐車場があり、車で行けるから⑧本や備品が豊富だから⑨本や備品が子どもの成長・発達に適しているから⑩他に適切な場所がないから⑪その他

(3) この図書館について、不便な点や改善を要望する点があれば教えてください。